

〔資料紹介〕

神内家蔵書目録（医書・古典籍之部）

清水 信子

はじめに

神内家は、讃岐・三木郡井門（井戸）郷（現木田郡三木町）にて十九世紀初頭より明治年間まで四代続いた医家である。四代由己は東京大学医学部から出された最初の医学士十八名のうちの一人である。

初代文仲（？）天保四・一八三三）は、山田玄純（？）文化十一・一八一四）より医学を学び、医家となる。

二代芳谷（又玄）（寛政四・一七九二）嘉永七・一八五四）、名篤、字子敬、芳谷、また又玄と号す。本姓森沢氏、森沢文甫第三子。山田玄純に医学を学び、ともに学んでいた文仲に子供がなかったため、その養嗣子となる。

三代喬木（文化十四・一八一七）明治二十六・一八九三）、名謙、通称捨蔵、字仲輔、喬木と号す。備前の難波抱節¹より医学を学び、片山冲堂²より儒を学ぶ。嘉永三年（一八五〇）、抱節

次男玄貞が将来した種痘法を讃岐に広めた。詩文もよくし、未刊の『神内喬木文集』がある。また太田剛氏によれば、喬木は息子の教育に熱心で、次男由己を東京に進学させるため、土地の一部や道具類を売却したという³。

喬木長男堅爾（嘉永元・一八四一）大正十・一九二一）は、幼名篤三郎、通称市蔵、篤斎と号す。高松藩医谷本雲斎の跡を継ぐ。よって弟由己が神内家医家第四代となる。ただし由己が東京に出ると、神内姓に復し、明治十六年（一八八三）、家名を相続し、明治二十八年（一八九五）、木田郡下高岡村（現木田郡三木町）の郷社鰐河神社宮司を拝命する。

四代由己（安政元・一八五四）明治十九・一八八六）は、喬木二男、兄堅爾が谷本家の養子に入ったため、神内家嗣子となる。高松藩医柏原謙好⁴、謙益⁵に入門し、医学を学ぶ。明治元年（一八六八）高松藩講道館入学。当時、講道館には、皇学寮、漢学寮、洋学寮、医学寮があり、由己は洋学寮で学び、明治三

年、医学寮の教授柏原謙益と学生が御坊川で行った牡馬の解剖（讃岐における初めての解剖）に参加している。明治四年に廃藩置県のため講道館が廃止されたため、由己は大学東校へ入学。在学中の明治十年、大阪陸軍臨時病院に勤務し、同十二年、東京大学医学部を卒業する。大学東校は明治七年に東京医学校と改称され、同十年に東京大学医学部となり、同十二年、卒業生に初めて医学士の称号を与えた。よって由己は最初の医学士となった。

これら由己の修学については父喬木によるところが大きい。前出太田剛氏によれば、「喬木は本来漢方医であって漢方の知識が極めて豊かあるが、天然痘やコレラとの格闘の中からそれに対する限界にも直面して常に新しい医学を勉強しなければならぬ」という意識をもった。それを最終的には子供たちに託し、由己の東京医学学校への入学につなげていった。」とされる。

由己は明治十二年、林紀（研海⁷）の妹浪と結婚し、大阪府立医学学校校長、院長を兼務したが、肺疾患を病み辞任。その後快復し、熱海に開設された日本初の温泉療養施設、喻瀛館の初代医長となるも病が再発し辞職。明治十九年没す。訳に『黴毒新論』（明治十四年）、著に『医家袖宝』（明治十六年）がある。

由己のご子孫國榮氏に管理される代々の資料は、古典籍の他、文書類、また神内家が神職にあったことから、神社関係の

文物などがあるが、今回、医書類と漢籍、和書など古典籍を中心に調査し目録とした。それら調査資料は医書類四十八点、医書以外の漢籍とその邦人注釈書類四十点、その他和書五七点の全一四五点（刊本一〇九点、写本三十六点）。

医書は、①中国古典医学とそれらに対する邦人注釈書、②産科、痘科などの医方書、薬物薬方処方書、③蘭方、西洋医学関係書、④近代医学書の四つに大別でき、①②は主に三代喬木からの蔵書、③④は四代由己時代のものと思われる。

①は『傷寒論』関係、②は産科、薬物薬方関係が多く、実際に診療のために活用したものと察せられ、近世後期、地方の在村医が重用した医書類であろう。③には高松藩藩校講道館医学寮の蔵書印がある『全体新論』『西医略論』『内科新説』があり、由己が在籍した明治初期の藩校の医学教育の一端が窺知される。

医書以外の漢籍、およびそれらに関する邦人注釈書は、四書五経、史書、諸子類、字典辞書類、詩文集類など、近世、漢学の素養を身につけるための一般的な蔵書構成と言え、喬木時代のもものが中心と思われる。

その他和書は、神道・国学、漢学・漢詩文、国文学、歴史地理などで、神道・国学関係は神内家神職時の蔵書、漢学・漢詩文関係は喬木からの蔵書と思われる。

附記 神内家資料調査に当たっては、所蔵者神内國榮氏、國榮氏甥佐藤昌由氏、また順天堂大学医学部酒井シヅ特任教授には多大なるご高配、ご協力を賜った。また神内家、また周辺人物の事跡に関しては太田剛四国大学文学部教授にご教示賜った他、由己に關しては、西岡幹夫香川大学医学部名誉教授「神内由己—さぬき初の医学士」(『香川の風土記』第二号／香川風土記の会／二〇一四年三月)、前掲酒井教授・神内國榮氏「日本最初の医学士神内由己について」(『日本医史学雑誌』第六十一卷第一号／一般社団法人日本医史学会／二〇一五年)を参照させていただいた。末文ながらここに記して心より謝意を表します。

注

- (1) 難波抱節、安政六年(一八五九)～寛政三年(一七九二)。名立愿、諱経恭、号抱節。江戸後期の漢蘭折衷医。備前の人。賀川蘭齋に産科を、吉益南涯に内科を、華岡青洲に外科を学び、また緒方洪庵に種痘を学ぶ。備前・金川で開業する傍ら家塾思誠堂にて教授した。
- (2) 片山冲堂、文化十三年(一八一六)～明治二十一年(一八八八)。名達、字元章、通称直造、号冲堂。別号に六石。昌平黌に学び、帰郷後、高松藩校講道館助教。
- (3) 放送大学平成二十七年(二〇一五年)度「片山冲堂と神内喬木の文と書」資料「神内喬木文集 解説」(二〇一五年十二月)
- (4) 柏原謙好、文化五年(一八〇八)～明治六年(一八七三)。名毅、字玄弘。長崎でシーボルトに学び、大坂で開業。嘉永二年(一八四九)、郷里讃岐で初めて種痘を実施。翌年高松藩医となり、維新後は高松病院種痘局長をつとめた。

(5) 柏原謙益、文政十年(一八二七)～明治二十九年(一八八六)。柏原謙好長男。高松藩講道館医学寮教授。明治三年(一八七二)、高松藩講道館医学寮教授時代生徒と御坊川で牡馬の解剖を行う。

(6) 同前掲注(3)。

(7) 林研海、弘化元年(一八四四)～明治十五年(一八五四)。幕府御典医林洞海長男。陸軍軍医総監。文久二年(一八六二)、オランダに留学し医学を学ぶ。明治元年(一八六八)帰国。明治十二年、第二代目軍医総監。神内家には、研海関係の文書も残る。

凡例

一、本目録は神内家に所蔵される医書、古典籍一四五点についての目録である。

一、分類、排列については、所蔵資料の傾向、構成を鑑み、漢籍(唐本、和刻本)、和書(日本出版書)の別なく、各資料の内容により、一、医書、二、漢籍・漢籍邦人注釈資料、そしてその他の邦人著作として、三、和書に大別し、続く中項目、小項目については、以下の各分類基準により立てた。

・医書：中国歴代正史の藝文志、経籍志、また多紀元胤『医籍考』、洪江抽斎・森立之『経籍訪古志』等を参考に、独自に立項した。

・漢籍・漢籍邦人注釈資料：原則として、『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』における四部分類に準拠した。

・和書：原則として、国文学研究資料館「日本古典籍分類表」に準拠したが、蔵書構成を鑑み、一部、項目順を変更した。

一、排列について、同項目内は、原則として成立年代順とするが、注釈資料については、その原本に続けた。

一、表記は、原表記に関わらず常用漢字体に統一した。判読不能字については、□とした。

一、各資料の書誌事項は、第一行に、書名・巻数、編著者事項、成書事項、冊数、蔵書整理番号、第二行にその他特記事項を記し、補足事項は（ ）、推定事項は〔 〕内に記した。

一、書名は、原則として内題（巻頭題）より定め、明記されていない場合は、外題、或いは著述内容等により定め、その場合（ 〕に入れた。

一、編著者事項は、本文巻頭の編著者記載事項によるが、邦人著書については、原則として原本記載事項を表記通り記載し、漢籍、及び漢籍和刻本については、原本表記に関わらず、王朝明、或いは国名を冠した各本姓名、続いて著述者は「撰」、編者は「輯」、その他、校注者等は「校」「訂」「注」等と附した。本文巻頭に明記されていない場合は、序跋等により適宜定め、その場合（ 〕に入れた。

一、出版者については、出版地を冠したが、江戸期の資料における江戸、京都、大坂の三都については、原本表記に関わら

ず、各々「江戸」「京都」「大坂」に統一した。

医書

医経

重広補註黄帝内経素問二十三卷 唐王冰註 宋林億等奉敕校正

宋孫兆改誤 明熊宗立句読 日本吉弘玄仍訓点 寛文三年（一

六六三）跋京都風月荘左衛門刊本 明万曆十二年周氏刊本 重刊

大十二冊 1 1-15

見返し「新刊官板補註／万曆甲申夏月周氏对峯刊行／黄帝内経素問」、識語「安永元壬辰十二月吉辰讚岐高松城下／木屋茂兵衛より求之／三谷寿宣」（巻首末）。識語の「三谷寿宣」は、喬木二女シゲが嫁した三谷謙山、三谷家の人物と思われる。他に『老子虜斎口義』に蔵書印が見える。

本草

和漢人参考（加藤謙斎著 加藤玄順補）延享五年（一七四

八）刊安永三年（一七七四）江戸結城次郎兵衛等補刊本 大

冊 2 1-40

巻懐食鏡（香月牛山著）明和六年（一七六九）刊寛政二年

(一七九〇) 京都茨木多左衛門田中庄兵衛印同後印本 縦長一冊 3 1-6

卷懷食鏡 (香月牛山著) 明和六年(一七六九) 刊寛政二年

(一七九〇) 京都茨木多左衛門田中庄兵衛印同後印本 縦長一冊 4 1-7

裏表紙書入「岡氏蔵」。「岡氏」は神内家親類岡本氏

傷寒・金匱

傷寒論不分卷 漢張仲景撰 晋王叔和撰次 江戸期刊本 半一冊 5 1-18

版心下部「順受居蔵」。

傷寒論劉氏伝四卷 劉棟田良氏(白水箏山)編述 明和九年

(一七七二) 京都林伊兵衛等刊本 大四冊 6 1-21

第二冊裏見返し書入「讚州 杏花堂」。「杏花堂」は神内家

医家堂号。

傷寒名数解五卷 中西惟忠子文甫著 安永三年(一七七四) 京

都高橋清兵衛等刊本 大五冊 7 1-17

傷寒論辨正六卷 中西惟忠子文甫著 寛政二年(一七九〇) 京

都林伊兵衛等刊本 大六冊 8 1-20

傷寒論精義四卷(存卷一) 吉益猷修夫(南涯)著 天保九年

(一八三八) 嶽瀧写本 存半一冊 9 1-19

裏見返し書入「天保戊戌写之嶽瀧蔵」、仮綴本。書写者

「嶽瀧」は未詳。他に『賀川蘭齋先生産科口授』写本がある。

金匱要略方論褫註三卷 劉棟田良(白水箏山)述 男(白水)

文叔子恵・西島貫易與同校 安永四年(一七七五) 刊文化四年

(一八〇七) 京都林伊兵衛等補刊本 大三冊 10 1-8

医方

蘇沈内翰良方十卷 宋蘇軾・沈括同撰 寛政十二年(一八〇

〇) 京都林喜兵衛刊本(千之堂蔵板) 大六冊 11 1-28

外題(表紙打付書)「治痘方筌」。

名家方選三編 平井主善庸信選 浅井子顕惟良校 文化五年

(一八〇五) 京都西村吉兵衛等刊本(観宜堂蔵版) 小一冊 12

1-36

内科

疝癥積聚編 大橋尚因著 天明七年(一七八七) 名古屋永楽屋

東四郎等刊本 半一冊 13 1-27

疹科・痘科

秘伝疹子心法一卷 明殷仲春輯 殷志伊校 丹波元簡校訂 寛

政十二年（一八〇〇）跋宮商閣刊本 中一冊 14 1-11

見返し「痧疹心法」。

戴曼公先生治痘用方〔明戴曼公著〕 池田正直筆記 玄孫（池

田）瑞仙撰 江戸期写本 半一冊 15 1-29

外題（表紙打付書）「治痘方箋」、裏見返し「撰兵庫於華岡

之塾写之」、仮綴本。

徽毒

徽瘡約言二卷 和氣惟亨（浅井南皋）著 平井庸信・村上図

基・間島信言同校 享和二年（一八〇二）京都長田調兵衛等刊

本（観宜堂蔵板） 大二冊 16 1-32

産科・婦人・小児

賀川蘭齋先生産科口授 難波恭子敬筆記 写本 半二冊 17

1-5

序題「産科記開序」、外題（表紙打付書）「産科記文」、第

一冊見返し書入「富潤屋酒潤身」、第一冊裏見返し書入「将

軍撃対／攻冒城」、裏表紙書入「軽病不可軽視／緩病不可緩

視／杏花堂蔵」、書写識語（裏表紙）「□…九年／於思誠堂寫

□／嶽瀧山人／□…」、仮綴本。「杏花堂」は神内家医家堂号。「思誠堂」は、三代喬木（捨蔵、由己父）が師事した難波抱節家塾名。「嶽瀧山人」は不明。

産論翼二卷附治験二十八條（巻乾闕） 賀川玄迪子啓甫著 戸

梶升吉夫等校（安永四年（一七七四）京都河南四郎兵衛河南

喜兵衛等刊本）写 存大一冊 18 1-12

末書入「神内氏蔵」。

産科三器図式附経験図式（存経験図式） 水原博（三折） 天保

八年（一八三七）跋刊本 存大一冊 19 1-9

婦嬰新説二巻図一卷（存巻上） 英国合信・清菅茂材同撰 江

戸期桃樹園三宅良斎拠咸豊八年（一八五八） 上海仁済医館刊

本重刊 存大一冊 20 1-33

印記「高松医／学寮蔵」（朱文長方印）。高松藩藩校講道館

旧蔵書。同蔵書は四代由己が大学東校に移った際に譲り受け

たとと言われる。本書の他『全体新論』『西医略論』『内科新

説』がある。

新刊万氏家伝幼科發揮二巻（巻下二闕） 清李之用輯 万全撰

江戸期刊本 存大三冊 21 1-38

外題（表紙打付書）「幼科發揮」。

鍼灸

名家灸選三編 平井主善庸信選 足助一庵美文校 文化十年
(一八一三) 跋京都西村吉兵衛刊本(観宜堂蔵版) 小一冊 22
1-35

薬物・薬方・処方

一本堂薬選三巻統一巻(存巻下続篇) 香川修徳太沖父著 [上
編享保十六年(一七三二) 京都文泉堂] 下編享保十九年跋続編
元文三年(一七三八) 序刊本 存大二冊 23 1-2

新增家伝預薬集六巻(存巻三至五) [岡本玄治] 江戸期刊本
存横三冊 24 1-22

合類薬種名寄帳後集 伊勢屋新兵衛 享保十四年(一七二九)

河内屋宇兵衛等刊本 横一冊 25 1-42

薬品手引草二巻(存巻上) 加地井高茂 [安永七年(一七七

八)] 刊本 小一冊 26 1-43

裏見返し書入「神内氏」。

薬徴続編二巻付録一巻 邨井杵著 寛政五年(一七九三) 長尾

彬写本 大一冊 27 1-37

書写識語「寛政癸丑仲冬下浣臆了山田氏之塾／長尾彬文仲
甫蔵」(末)。「山田氏」は、神内家医家初代文仲、二代芳谷
が学んだ山田玄純塾か。

華岡膏方便覧 [華岡青洲] 写本 半一冊 28 1-44

第一丁白葉裏書入「杏花春雨園」

衆方規矩 闕名 写本 横一冊 29 1-16

名物考纂方 闕名 写本 半二冊 30 1-41

古方兼用丸散方 田口鼎信庵集撰(吉益東洞著 田口信庵輯)

文化六年(一八〇九) 江戸英平吉等再訂文政二年(一八一九)

同再刊本 小一冊 31 1-10

見返し「文政二年己卯夏再刊」編著者事項「吉益東洞先生
著 田口信庵輯」、巻頭編著者事項「田口鼎信庵撰」、奥付
「文化六年己巳夏再訂／」。

思誠堂丸散方苑 闕名 江戸期写本 小一冊 32 1-14

「思誠堂」は難波抱節家塾。抱節には三代喬木が学ぶ。仮

綴本。

〔症例処方〕 闕名 写本 零本 33 1-45

「耳病」「癰疽」等各種症例、処方。

医論

漫遊雜記二巻(存巻下) 永富鳳朝陽(独嘯庵)著 松士蔵道

遠校 藤元幹隆昌訂 江戸期神内甲瀧写本 存大一冊 34 1

1-34

文化五年松士蔵道遠跋あり、書写識語(裏見返し)「大坂
於吉益先生写之 神内甲瀧」、仮綴本。神内甲瀧については

未詳。

鹿城先生医談 (華岡) 青洲先生著 天保九年(一八三八)志

賀氏写本 半二冊 35 1-39

書写識語「天保九年於□庫志賀氏写之」(第一冊末)、
綴本。

蘭方・西洋医学

遠西医方名物考三十六卷(存卷四、二十五、二十七) 榛齋先

生(宇田川榛齋) 訳述 男宇田川榕榕庵校補 写本 存大三冊

36 1-3

假綴本。

解体新書四卷付図一卷(存卷?) (キユルムス著) 杉田玄白

翼訳 中川淳庵麟校 石川玄常世通參 桂川甫周世民閱 江戸

期刊本 存大三冊 37 1-4

失勃兒杜驗方録 (シーボルト) 天保十三年(一八四二) 写本

大一冊 38 1-13

裏表紙書入「時天保寅草春得而写之原本同郷之/山本生所

持魯魚之違不少雖然不贅/敢私説待後來君子」、假綴本。

全体新論 英国合信・清陳修堂同撰 安政四年(一八五七) 京

都勝村治右衛門等刊本 半二冊 39 1-26

印記「高松医/学寮藏」(朱文長方印)。高松藩藩校講道館

旧蔵書。前掲『婦嬰新説』参照。

西医略論三卷 英国合信・清管茂材同撰 安政五年(一八五

八) 桃樹園三宅良齋撰咸豐七年(一八五七) 上海仁濟医館刊本

重刊江戸万屋兵四郎後印 半三冊 40 1-24

印記「高松医/学寮藏」(朱文長方印)。高松藩藩校講道館

旧蔵書。前掲『婦嬰新説』参照。

西説医範提綱三卷(存卷二) 榛齋宇田川先生訳述 諏訪俊士

德筆記 江戸期刊本 存大一冊 41 1-25

内科新説三卷 英国合信・清管茂材同撰 安政七年(一八六

〇) 京都天香堂安藤桂抱咸豐八年(一八五八) 上海仁濟医館刊

本重刊 半三冊 42 1-30

印記「高松医/学寮藏」(朱文長方印)。高松藩藩校講道館

旧蔵書。前掲『婦嬰新説』参照。

近代

人体部分問答 小野田虎太著 明治九年(一八七六) 大阪田中

太右衛門 半一冊 43 1-23

内科必携理學診斷法六卷(存卷一、四、六) 米ルミス撰著

小林義直訳述 明治九年(一八七六) 序東京島村利助刊本 存

半三冊 44 1-31

〔症例〕(尿性質…) 写本 一綴 45 1-47

巻頭「尿性質―異重―尿素…」。

〔症例〕(肺勞…) 写本 一綴 46 1-48

巻頭「肺勞(治療性気管支太及肺結核)」。

病理学試問応答 三期二十二号 写本 半一冊 47 1-49

仮綴本。

諭瀛館浴医局規則 写本 一枚 48 1-50

諭瀛館は熱海に開設された日本初の温泉療養施設。四代由

己が初代院長を務めた。

漢籍・漢籍邦人注釈資料

經部

書類

尚書大伝四巻補遺一卷(存卷一至三) 漢伏勝撰 漢鄭玄注

清乾隆二十一年(一七五六)序刊本 存半一冊 49 2-17

印記「醫々/堂印」、仮綴本(表紙裏表紙無し)。

書經六巻即書經集註(卷一闕) 宋蔡沈撰 寛文四年(一六六

四)江戸今村八兵衛重印本 存大五冊 50 2-18

外題(題簽)「新刻/頭書一書經集註」「新刻頭書」角書)。

礼類

礼記四巻(改正音訓五經) (後藤世鈞点 後藤師周・後藤師

邵同校) 天明七年(一七八七)刊文化十年(一八一三)修

文政十三年(一八三〇)大坂山内五郎兵衛等印本 存大一冊

51 2-33

外題(題簽)「改正/音訓一礼記」又「再刻 後藤点」

(「改正音訓」角書)。

春秋類

重訂批点春秋左伝詳節句解三十五巻(存卷五至八) 宋朱申撰

明余元長校 明崇禎年間序刊本 存半一冊 52 2-13

首書本。

春秋経伝集解三十巻(卷一二闕) 晋杜預撰 江戸期刊本 存

半十四冊 53 2-14

裏見返し書入「春秋左氏伝 三好氏」(第三冊)、「神内

氏」(第六、十五冊)、印記「覚善寺/蔵図書」(第五、十三

冊)。覚善寺(真宗興正派)は三木町高木で私塾を開き、近隣

の子弟に教授していた。

左伝杜解補正 清顧炎武撰 明和四年(一七六七)藤沢三郎兵

衛風月莊左衛門中江久四郎刊本 大一冊 54 2-8

孝経類

(古文) 孝経一卷 漢弘安国伝 日本太宰春台音 享保十七年
(一七三三) 江戸小林新兵衛刊本 大一冊 55 2/6

四書類

大学解・中庸解 物茂卿(荻生徂徠)著 江戸期江戸松本善兵衛後印本 大二冊 56 2/26

見返し「大学解／中庸解」。

孟子二卷(四書白文) 寛政五年(一七九三) 大坂柏原屋源兵衛等刊本 半二冊 57 2/31

版心上部「四書白文」。

孟子十四卷即孟子集註(存卷七至十)(倭版四書) 宋朱熹集註 江戸期刊本 存半一冊 58 2/32

版心上部「倭版四書」下部「山崎嘉点」、印記「伊勢／蔵書」。

論語古訓十卷(卷三、四闕) 太宰純撰 元文四年(一七三三)

九) 江戸須原屋新兵衛刊本 存大四冊 59 2/36

論語古訓外伝二十卷 太宰純徳夫著 延享二年(一七四五) 江戸

小林新兵衛刊本 大一冊 60 2/37

論語徴十卷 物茂卿(荻生徂徠)著 寛政四年(一七九二) 大

坂池内八兵衛抛元文五年(一七四〇) 同刊本重刊 大一冊 61
2/38

大学章句一卷中庸章句一卷論語集註一卷(卷一二闕) 孟子集註
十四卷即四書章句集註 宋朱熹撰 寛文九年(一六六九) 野田
庄右衛門刊本 存半八冊 62 2/9

中庸章句一卷孟子集註十四卷(存卷一二、七至十) 即四書章句
集註(後藤点) 宋朱熹撰 江戸期刊本 存大三冊 63 2/10

版心下部「後藤点」。

小学類

草書韻会五卷 金張天錫撰 慶安四年(一六五二) 京都秋田屋

平左衛門刊本 大二冊 64 2/24

韻鑑古義標註二卷補遺一卷 叡龍撰 享保十一年(一七二六)

京都秋田谷平左衛門文台屋次郎兵衛刊補遺元文三年(一七三

八) 文台屋次郎兵衛秋田谷平左衛門刊本 大三冊 65 2/1

千字文 元文五年(一七四〇) 江戸山城屋茂左衛門刊本 大二

冊 66 2/21

第一冊表紙裏書入「一成庵」「築地一成庵」「慧空」又印記
(白文正方印)「釈／□」他不明印二顆、裏見返し「神内徳三

郎」「由太郎」、裏表紙「神内篤三郎」、第二冊表紙裏に「安

永九庚九月」次遊紙に「一成庵(印記)／文久二年戊□／神

内篤三郎」裏「神内芳太郎」(他の「神内…」と別筆)、裏見

返しに「神内氏」とあり。篤三郎は堅爾幼名。堅爾旧蔵。

「由太郎」「芳太郎」は未詳。

笠翁詩韻 清李漁撰 日本梶原景惇校 江戸期刊本 縦長一冊

67 3 | 57

裏表紙裏書入「正月廿日／岡平蔵」。

史部

新刻古列女伝八卷新続列女伝三卷 漢劉向撰 明胡文煥校 新

刻古列女伝承応二年(一六五三) 大坂上田卯兵衛刊新続列女伝

承応三年同刊宝暦十二(一七六二) 年大坂上田嘉嚮堂和泉屋卯

兵衛印本 大八冊 68 2 | 34

海国図志訓訳二卷 清林則徐原訳 清魏源重輯 日本服部棟隆

訓訳 安政二年(一八五五) 序刊本 大二冊 69 2 | 3

見返し「清林則徐原訳／清魏源重輯／海国図誌訓訳」第

二冊裏見返し書入「谷本姓」。「谷本」は三代喬木長男堅爾が

養子となった谷本雲斎の谷本家。

棲逸伝 (明何良) (明) 刊本 半一冊 70 3 | 24

印記「谷／菴」(朱文正方印)、他不明白文正方印一顆。

子部

儒家類

孔子家語十卷 魏王肅注 日本太宰純(春台) 増注 寛保二年

(二七四二) 江戸須原屋新兵衛刊本 大五冊 71 2 | 7

小学六卷(卷一二闕) 明陳選撰 貞享四年(一六八七) 江戸

藤本兵左衛門刊本 存大三冊 72 2 | 15

各冊識語、眉注等書入あり、第二冊(卷三四) 表紙裏「元

治甲子／元治元年五月廿二日 二」「神内篤三郎／神内篤三

郎／神内氏」同表紙次遊紙「神内由己／長居士寫(?) 之」

卷四末「天明七丁未之秋／神内篤三郎」(「天明七丁未之秋読

此／□田氏蔵」を胡紛塗抹して上から墨筆)、第三冊(卷五

冊末)「慶応元年閏五月廿一日分」、第四冊(卷六冊) 書末

「右之四札／貞享八年陽春／神内杏花堂求」。印記「田□／之

印」(白文正方印)。篤三郎は堅爾幼名。杏花堂は神内家医家

堂号。

小学句読口義詳解十三卷 (存卷三) (明陳選句読 日本宇都宮

由の詳解) 江戸期刊本 存大一冊 73 2 | 16

卷三首題作「…祥解」、末題作「…詳解」。

北溪先生字義詳講二卷附北溪先生嚴陵講義一卷 宋陳淳撰 宋

王雋編 日本山脇重頭点 寛文八年(一六六八) (京都村上平

楽寺) 刊本 大二冊 74 2 | 30

表紙裏書入「岡氏」。

兵家類

七書二十五卷（存孫子三卷 吳子二卷 司馬法三卷 尉繚子五卷 黃石公三略三卷） 宋闕名輯 覆慶長十一年（一六〇六）
 徳川家康木活字印本刊 存大一冊 75 211
 印記「木内氏／函書」

雜家類

淮南鴻烈解〔漢劉安撰 漢高誘注〕 写本 中一冊 76 212
 〔原道訓〕。

小説家類

剪燈新話句解四卷 明瞿佑撰 朝鮮尹春年（滄洲）訂 朝鮮林
 芑（垂胡子）集釈 慶安元年（一六四八）京都仁左衛門刊本
 大二冊 77 212

類書類

新刻四民便覽万書萃錦三十六卷（存卷六至八） 明趙植吾編

明刊本 存大一冊 78 219

正文文章軌範百家評林註釈七卷 統文章軌範百家批評註釈七卷（正文文章軌範卷四至七闕） 宋謝枋得輯 明李廷機評 明鄒守益輯
 統 明焦竑評統 明李廷機注統 正徳五年（一七一五）京都植
 村藤右衛門等拠万曆三十四年（一六〇六）書林陳徳宗存徳堂刊
 本重刊 存大三冊 79 220

増続大広益会玉篇大全十卷 首一卷 毛利瑚珀編 享保二十年
 （一七三五）大坂烏飼市兵衛等刊本 半十二冊 80 225

〔新鐫詳解〕丘瓊山故事必読成語考二卷 明丘濬撰 明盧元昌
 補 天和元年（一六八一）序刊本写 半一冊 81 239

天和元年序刊本を首書部含め移写。巻頭題は、刊本は「新
 鐫詳解丘瓊山故事必読成語考」とあるが、本書は書写せず。

道家類

莊子南華真經十卷（卷十闕） 晋郭象注 日本服部南郭校（二元
 文四年（一七三九））江戸植村藤三郎京都中野宗左衛門刊本
 存大九冊 82 223

老子虜齋口義二卷 宋林希逸撰 江戸期刊本 大二冊 83 2
 35

印記「式／谷」（朱文正方印）、「寿／宣」（白文正方印）。
 印記の三谷寿宣は、『重広補註黄帝内經素問』に識語あり。

喬木二女シゲが嫁した三谷家旧藏書。

集部

書入「岡氏」、印記「澤／氏」(白文正方印)、「顕龍」(白文長方印)。
和書

評苑文選傍訓大全十五卷(存卷九至十五) 明王象乾刪訂 明

余国資閱 元禄十一年(一六九二) 京都辻勘重良等刊大坂植村

藤三郎等後印本 存大五冊 84 2-29

末冊裏表紙裏書入「東讃州三木郡井戸邑高木／神内宗而／書物也」。

唐詩選辨蒙国字解 宇成之(宇野東山)著 嘉永五年(一八五

二) 萩原菊治郎補刊本 半四冊 85 2-28

韓文公書牘二卷〔唐韓愈撰〕 山本公輿子參・若林貞伯節・平

田釋登刪訂 天明四年(一七八四) 刊本(奚疑塾藏版) 大二

冊 86 2-4

印記「中邨氏／家藏印」(白文長方印)

歐蘇手簡四卷 宋欧阳脩・蘇軾撰 日本吉松正修校 日本釈大

典再校 天明元年(一七八二) 京都吉村新右衛門等刊本 大二

冊 87 2-12

新鐫注釈玉堂尺牘彙書一卷 清陳晋撰 清蔡方炳註 貞享四年

(一六八七) 林五郎兵衛掬清康熙二十一年(一六八二) 集賢居

刊本重刊 大一冊 88 2-5

見返し「玉堂尺牘彙書」又「康熙壬戌冬新編」、裏見返し

神道・国学

祝詞考三卷(卷上闕)〔賀茂真淵〕 江戸期大坂中川勘助等後

印本 存大二冊 89 3-43

俗神道大意四卷 平田篤胤講説 門人等筆記 江戸期刊本 大

四冊 90 3-30

末に「伊吹廼屋先生及門人著述刻成之書目」(塾藏版)あ

り。印記「岡本／之印」(朱文正方印)「神内／氏印」(朱文

正方印)、第二冊裏表紙裏書入「神内氏」。

靈能真柱二卷(存卷上) 平田篤胤著 江戸期刊本 存大一冊

91 3-58

印記「岡本／之印」(朱文正方印)(墨で×)「神内／氏印」

(朱文正方印)。

玉櫛十卷附一卷(玉多春記・多満太春記・玉手纏・多満太須

幾)(卷一、五、九闕) 伊吹廼屋先生(平田篤胤)講本(鍍

胤附) 大野広則等校 明治二年(一八六九) 跋刊本 大六冊

92 3-33

末に「伊吹廼屋先生及門人著述刻成之書目」(塾藏版)あ

り。印記「岡本／之印」(朱文正方印)

志斐賀他理 平(矢野) 玄道敬記 明治二年(一八六九) 跋刊

本 大二冊 93 3-17

印記「岡本／之印」(朱文正方印)(鉛筆で抹消線)「神内／氏印」(朱文正方印)、第一冊破損大。

靈宝録讚州金毘羅開帳 闕名 寛政三年(一七九二) 序刊本

(象頭山蔵板) 中一冊 94 3-1

印記「神内／氏印」(朱文正方印)。

漢字・漢文

辨名二卷 物茂卿(荻生徂徠)著 江戸期野田七兵衛後印本

大二冊 95 3-55

辨道 物茂卿(荻生徂徠)著 享保二年(一七二七) 跋刊本

大一冊 96 3-53

辨道考注 物茂卿(荻生徂徠)著 宇(宇佐美) 恵子迪(瀧

水)考注 本田彌文輔補校 宇徳章明卿校 江戸期刊本 大一

冊 97 3-54

印記「間島／臧記」(朱文正方印)、書末識語「文政庚辰秋 谷維明卿於不朽閣求之□□書」(庚辰〓三年、□□) 本来の

識語に上書「子青」

南郭先生尺牘標注 榎岡瀨(村瀨) 観子瀾輯 木克温夫・柴久

敬叔交同校 寛政七年(一七九五) 江戸小林新兵衛刊本 大二

冊 98 3-40

印記「醫々／堂印」(朱文長方印)「谷本／徽印」(朱文長方印)、第一冊裏表紙裏書入「天保四午年春三月二日求是」眉欄に書人多数あるが、購入前の旧蔵者のもの。

春台先生紫芝園稿序目一卷前稿五卷後稿十五卷付録一卷(太

宰春台著) 稲垣長章釋明 堤有節仲文編 宝暦二年(一七五

二) 江戸小林新兵衛等刊本 大十二冊 99 3-21

印記「积印／敬智(积敬智印)」(朱文正方印)「字／大藝(?)」(朱文正方印)

(柴野栗山文集) [柴野栗山] 写本 小一冊 100 3-12

柴野栗山の文章を抄録したもの。

字典・辞書

雑字類編七卷 [柴野栗山著] 柴野貞毅小輔重修 辻言恭子礼

校字 天明六年(一七八六) 京都俵屋清兵衛等刊本 半二冊

101 3-16

印記「神内／蔵書／之印」(朱文正方印)「神内／氏印」(朱文正方印)。

雑字類編七卷 [柴野栗山著] 柴野貞毅小輔重修 辻言恭子礼

校字 天明六年(一七八六) 京都俵屋清兵衛等刊本 半二冊

102 3 45

詩語碎錦二卷 (卷之下) 永 (永田) 忠原俊平 (観鷺) 輯 桑

元儀民則・薩元雌雄甫校 明和五年 (一七六八) 刊 安永八年

(一七七九) 京都林伊兵衛等刊本 存中一冊 103 3 18

表紙裏書入「持主 神内姓」。

文語解五卷 (卷四闕) (竺常 (顯常)) 明和九年 (一七七二)

大坂大野木市兵衛等刊本 存半四冊 104 3 50

学語編二卷 大典禪師輯 明和九年 (一七七二) 京都小林庄兵

衛等刊 京都丸屋善兵衛後印本 半二冊 105 3 4

文筌小言解一卷 附録一卷 南郭先生 (服部南郭) 著 近藤惟言

解 村井宗達校 附録東園通攷 积泰運参訂 积正円纂輯 安

永七年 (一七七八) 序刊本 大一冊 106 3 52

裏表紙裏書入「文政十三年丙子十一月五日 / 求之於江都駿

河街佃孔 / 方二十穴 / 宮武守中藏書」、「宮武守中」に抹消線、

旧藏者か。眉欄書入多数、旧藏者によるもの。

辨訳文要訣 城山道人 (中山城山) 撰 积三靈校 文化二年

(一八〇五) 河内屋儀助等刊本 大一冊 107 3 56

漢詩文

唐詩解頤七卷補遺一卷 竺頭常著 安永五年 (一七七六) 刊本

後印 半二冊 108 3 38

第一冊表紙書入「大窪寺」(第二冊は墨消)、第二冊裏表紙

裏書入「神内姓」。

古文矩 (荻生) 徂徠物先生選評 宇恵 (宇佐美瀧水) 校 明

和元年 (一七六四) 序 江戸松本善兵衛刊本 大一冊 109 3 15

序首「合刻古文矩文変」、「古文矩」の次に「文変」。

詩工椎鑿十三卷 岡崎廬門先生閱 男 (岡崎) 元軌伯則輯 文

政元年 (一八一八) 刊 天保二年 (一八三一) 大坂河内屋茂兵衛

印本 小二冊 110 3 19

見返し「詩工錐鑿」、第一冊裏表紙書入「神内氏」。

増補文語粹金四卷 (存卷三、四) 鈴木政寧又甫輯 弘化四年

(一八四七) 江戸英文藏刊本 存半一冊 111 2 40

裏表紙裏書入「讚州 / 杏花堂得之」。杏花堂は神内家医家

堂号。

新刊錦繡段 天隠龍澤 寛文五年 (一六六五) 刊本 大一冊

3 7

卷首 (序)「錦繡段」又下部「新編新刊拔萃」、本文巻頭

「新刊錦繡段」。

絶句解 物茂卿 (荻生徂徠) 著 男 (荻生) 道斎校 江戸期刊

本 小一冊 (闕丁あり) 113 3 28

卷首「五言絶句百首解」、次「滄溟七絶三首解」(第一丁

闕か。末にも闕あり、不完)、版心題「五絶解」「七絶解」

版心下部に「誦塾蔵」とあり。印記「醫々／堂印」（朱文長方印）、仮綴本。

南郭詩集 南郭先生（服部南郭） 安永三年（一七七四）江戸
小林新兵衛刊本 小一冊 114 3-39

見返し「南郭先生／五七言絶句／東都書肆 高山房」

南郭先生文集初編二編三編四編四十卷補遺一卷（初編卷一至

五、八至十二編卷六至十闕）服（服部）元喬（南郭）著 望

（望月）三英輯 藤（伊藤）元啓維迪校 享保十二年（一七二

七）至宝暦八年（一七五八）須原屋新兵衛刊本 存大五冊 115

3-41

文政十七家絶句（存第一冊）王香主人加藤淵編輯 雲渦鷗史

大塚弘校字 江戸期刊本 存半一冊 116 3-51

題画詩選五卷 岡崎信好師古編 中邨正祥士禎校 安永七年

（一七七八）京都林伊兵衛刊本 全中一冊 117 3-31

印記「□／良」、裏表紙裏書入「花本／村尾氏」。

金蘭会稿（存卷上）大塚孝綽・柴野邦彦（栗山）等 写本

存小一冊 118 3-8

巻首「金蘭会稿 上」とあり、二巻か。別の一本（119・3

1-9）とは、概ね同内容ではあるが、該本巻首に「上」字無

く、その他本文に異同あり。

金蘭会稿 大塚孝綽・柴野邦彦（栗山）等 写本 半一冊 119

3-9

巻首「金蘭会稿」。別の一本（119・3-8）とは、概ね同内容ではあるが、該本は巻首に「金蘭会稿 上」とあり、二巻か。その他本文に異同あり。

閑哦漫艸 闕名 写本 存小一冊 120 3-5

外題（表紙打付書）「閑哦漫艸」又「二」、菅公九百五十年

忌（嘉永五年・一八五二）に際しての詩あり。

詩文章稿 闕名 写本 半一冊 121 3-20

外題（表紙打付書）「詩文章稿」。

国文学

歌梯二巻 蘭園主人（富士谷成章）編 文化十一年（一八一

四）葛西市郎兵衛等刊本 小二冊 122 3-60

（青雲遺片・集外和歌）写本 半一冊 123 3-25

巻頭題「青雲遺片」下部小字双行「隋聞見書写／不論次

第」以下漢詩、次「集外和歌」以下和歌。罫紙版心上部に

「文房清玩」下部に「活套」とあり。

新撰対類 万里集九跋 江戸期大和田□右衛門刊本 小一冊

124 3-44

太平新曲摘抄 安穴先生（中島棕隠）著 武朝保閑 鄒可潭校

王震起梓 江戸期写本 中一冊 125 3-32

巻首「太平新曲摘抄」（「卷之一」）を塗抹して上に「摘抄」、

外題 (表紙打付書) 「太平新曲摘抄」、文政二年 (一八一九) 序あり、書入に「安政七」とあり。

風流志道軒伝五卷 (存卷一) (風来山人 (平賀源内)) 江戸期刊本 存中一冊 126 3-49

不明白文正方印一顆あり。

為家卿筆仮名文 (藤原為家) 高野三位保光卿写 全一帖 127

3-34

外題 (表紙打付書) 「為家卿筆仮名文」又「高野三位保光卿写」。

お志ゆん伝兵衛堀川段 江戸期刊本 中一冊 128 3-3

薫樹累物語 (土橋の段) (達田辨二・吉田鬼眼・烏亭焉馬一世) 江戸期大坂加嶋屋清助刊本 (寛政二年初演) 中一冊 129

3-10

裏表紙裏書入「高木神内氏」。

菅原伝授手習鑑 零本 130 3-23

表紙、裏表紙のみ存。

藝能

〔東臯琴譜 (抄)〕 (心越興儔 (東臯)) 中一冊 131 3-36

印記「思仲尼ノ之克己」~~ノ~~「老氏ノ之常足」(張衡「東京賦」より)。書名は内容により推定。巻首「調弦入弄」。

歴史

古事記三卷 (太安万侶編) 享和三年 (一八〇三) 刊明治三年 (一八七〇) 京都永田調兵衛印本 大三冊 132 3-13

印記「菅岡ノ之印」(朱文正方印)「岡本ノ之印」(朱文正方印)「神内ノ氏印」(朱文正方印)、全冊にわたり書入あるも、各冊別筆、精粗あり。上巻は眉欄に詳密、中巻は紙片に

注記し貼付、下巻は朱筆眉注。神内家所蔵者との関係未詳。

菅家御由来 写本 中一冊 133 3-6

外題 (表紙打付書) 「菅家御由来」、巻首「正一位太政大臣天満大自在天神御由来」。

惺窩先生行状 (林羅山) 江戸期写本 大一冊 (零本) 134

3-26

外題 (表紙打付書) 「惺窩先生行状」、仮綴本。

地理

赤水先生東奥紀行 (長久保赤水著) 長中行訂正標注 寛政四年 (一七九二) 江戸北沢伊八等刊本 半一冊 135 3-37 印

記「来青軒ノ岡文庫」

祖谷記 (祖谷紀行) 菊池助三郎識 江戸期写本 半一冊 136 3-2

政治

- (統紀) 歷朝詔詞解六卷 本居宣長解 江戸期名古屋永楽屋東
四郎等後印本 大六冊 137 3|59
- 序題「歷朝詔詞解」、内題「統紀歷朝詔詞解」、印記「高松藩／皇学寮」(朱文長方印)「岡本／之印」(朱文正方印)(い
ずれも墨で抹消線)「神内／氏印」(朱文正方印)。
- 政談四卷〔荻生徂徠〕江戸期写本 半四冊 138 3|27
- 外題(書題簽)「政談」又「元(亨、利、貞)」、印記「醫々
／堂印」(朱文長方印)、「醒禺(?)」(朱文長方印)、「立／
之」(墨文正方印)
- 經濟錄十卷(卷五闕) 太宰純撰 写本 存大九冊 139 3|11
假綴本。
- 日本政記十六卷(存卷九、十一、十四) 頼襄子成著 江戸期
刊本 存半三冊 140 3|42
- 印記「高松公／中署公」(朱文長方印)、表紙裏書入「第六
拾三号」。
- 致身雜記(官途雜錄) 谷本省庵 写本 半一冊 141 3|35
- 外題(表紙打付書)「致身雜記」、内題「官途雜錄」。

教育

- 万家專用消息千字文〔速水春曉斎著 曉鐘成画〕文政十年
(二八二七) 大坂秋田屋太右衛門等刊本 半一冊 142 3|46
- 「万家專用」角書。
- 万代用文章〔西川竜章堂〕文政九年(一八二六) 京都伏見屋
半三郎等刊本 小一冊 143 3|47
- 書牘 内田嘉一書〔明治七年(一八七四)〕刊本 中一冊 144
3|61
- 諸言題「書牘日用文諸言」、卷首「書牘」、版心題「書牘」。
- 諸藝
- 秘事百選即秘事百撰〔福井智徳斎〕江戸期写本 中一冊 145
3|48
- 外題(表紙打付書)「秘事百選」、正しくは「秘事百撰」、
刊本あり。